

## 優秀賞

# 千葉県立東金特別支援学校

# 「第47回 運動会」

## 学校紹介

本校は、小・中・高等部の3学部ある知的障がいの特別支援学校である。2016年より、オリンピック・パラリンピック教育に取り組み、2018年から県教育委員会より推進指定校を受けて取り組んでいる。2020年に向け、オリンピック・パラリンピックや障がい者スポーツを校内はもとより、地域にも広める事を目的とした児童生徒主体の推進隊を結成し活動している。

## 取組概要等

### 【取組概要】

本校は各学部で個人、団体種目が設定され、オリンピック・パラリンピックの要素を取り入れた運動会は4年目となる。また、全校児童・生徒による模擬聖火リレーを実施した。

### 【取組のねらい】

これまで体育等で取り組んできた学習にオリンピック・パラリンピックの要素を柔軟に取り入れて運動会種目にする事をねらい取り組んだ。

### 【創意工夫した点】

小学部は、学習で両手でロープをたぐり寄せる動作をおこなっており、その動作を応用して東京2020マスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」が乗ったサーフボードをロープでたぐり寄せる競技をした。中学部は、千葉県開催競技の8競技から、生徒がサーフィン、レスリング、車いすフェンシングを選択し障がい物競争に活用した。高等部では、リレーのバトンのかわりにオリンピックのシンボルの輪に変えて2人1組で行った。模擬聖火リレーは採火式を運動会集会で行い、その日から3週間かけて全校で実施した。オリジナルのトーチはデザイン募集をして制作した。当日は、80m離れた場所からペットボトルロケットに点火し、校舎屋上の模擬聖火台に点火した。これは、1992年のバルセロナオリンピックの点火シーンを参考にしたものである。

### 【取組結果や効果】

体験を通して学習することで、競技の理解、ルールの特性を学ぶことができた。東京2020大会に向け機運醸成はもとより、地域にオリンピック・パラリンピックや障がい者スポーツを啓発する良い機会となった。

### 【来年度以降の展開予定など】

次年度以降も、従来の活動にオリンピック・パラリンピックの要素を柔軟に取り入れ継続して取り組む予定である。

## プログラムの様子



・模擬採火式  
オリンピックの聖火の学習として、凹面鏡等を用意し、採火から忠実に再現した。



・小学部種目  
体育で取り組んでいる要素と千葉県開催競技サーフィンを合わせた種目。



・模擬聖火リレー  
毎日、運動会練習前に模擬聖火リレーを実施。全校144名で運動会までつないだ。



・中学部種目  
千葉県開催競技を障がい物競争で実施。写真は車いすフェンシングの様子。

## 東京2020アスリート委員会からのコメント

小・中・高等部の競技が工夫されていると感じました。現在、行っているオリンピック・パラリンピック教育や千葉県で開催予定の競技など、多岐に渡って種目を取り入れ、模擬聖火リレーをリアルに表現したと思います。

## 受賞のコメント

運動会にオリンピック・パラリンピックの要素を柔軟に活用し取り組むことで、体験的な学習となり理解につながります。運動会のねらいは、これらの要素と合致する部分が多いので取り入れやすいです。